

草の根技術協力（支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	ホンジュラス
2. 案件名	エコミュージアム構想による市民参加型まちおこし支援プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	ホンジュラスの西端に位置するコパンレイナス市のマヤ遺跡は、1980 年にユネスコにより世界文化遺産として登録され、長年日本の研究チームが中心となり、コパンレイナス及びその一体の遺跡調査を進めている。他方、ホンジュラスは、一人当たり GNI が 2,890 米ドル（2023 年、世界銀行）と中南米の最貧困国の一つであり、都市部と地方の所得格差も大きい。同国政府が掲げる「国家ビジョン 2010-2038」においては、国内の貧困や社会格差を解消する上で、限定的な生計手段を改善するため、地場産業の発展が課題の一つとされている。そのため政府は、裾野の広い観光産業を地域開発に資する重要な柱と位置付けており、なかでも代表的なマヤ遺跡であるコパン遺跡は、「持続的観光国家戦略」において、「ホンジュラス観光の魅力の向上」に資するとして優先開発ゾーンに位置付けている。コパン遺跡という文化財を核とした地域の特性を考慮し、地元住民を巻き込んで地域振興を狙うエコミュージアム構想をベースとした本事業は、同地域が必要とする包摂的な発展を促すと考えられる。
4. プロジェクト目標	コパンレイナス市において、地域の多様な文化・自然資源を活用する「まちおこし」を通して、地域住民の生活向上につながる新たな観光開発の仕組みが構築される。
5. 対象地域	ホンジュラス コパンレイナス市
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	・コパンレイナス市役所（担当部署） ・エコミュージアム構想のコンセプトを理解した地域住民グループ（約 30 名）
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<アウトプット> 1. コパンレイナス市民の参加により、地域の埋もれた文化・自然資源が再発見され、新しい観光資源マップが作成される。 2. 町全体を一つのエコミュージアム（まちごと博物館）として活用する構想を理解し、持続可能な形で活動してくれる住民グループができる。 <活動> 1-1：コパンレイナス市周辺の埋もれた文化・自然資源の調査、掘り起し 1-2：コパンレイナス市の新たな観光資源マップの作成 2-1：エコミュージアム（まちごと博物館）構想についての事前研修 2-2：持続的にプロジェクト活動に参加・協力してくれる地域住民の募集 2-3：エコミュージアム構想を定着させるためのイベントやセミナーの実施 2-4：市民参加協力の一環としての公立小松大学学生および小松市民のプロジェクトへの参加、コパンレイナス住民との交流による事業推進
8. 実施期間	（西暦） 2025 年 1 月～2026 年 12 月（2 年 0 カ月）
9. 事業費概算額	9,981 千円
10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	コパンレイナス市役所

Ⅱ．団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	公立大学法人 公立小松大学
2. 主な活動内容	公立小松大学は、小松市を設立団体として 2018 年に設立された新しい大学である。事業対象国であるホンジュラスにおいては、文部科学省の科学研究費助成事業（科学研究費補助金基盤研究（S）等）による調査研究や、文化庁委託事業費による文化遺産国際協力拠点交流事業を実施中であり、ホンジュラスの世界遺産「コパンのマヤ遺跡」の発掘調査・修復保存事業をホンジュラス国立人類学歴史学研究所と共同で実施している。また、本事業の本の対象地域であるコパnlレイナス市には、活動拠点となる大学のリエゾンオフィスを設置済みである。